

図書館通信

松山城南高校
図書・情報委員会
R2. 3
No.9

☆後期図書情報委員長、副委員長離任の挨拶

初めての委員長を務め、とても緊張し、上手く皆を引っ張っていきけるか不安でした。それでも自分の出来ることを精一杯行い、ベストを尽くして頑張れたので、後悔はありません。人の前に立つことで、自分自身の責任感を育てる良い経験になりました。好きな本のジャンルが同じ人と話が盛り上がり、コミュニケーションもとれて楽しむことが出来ました。今、図書館に来る人はだいたい決まっているので、これから新しく図書館に来る人が増えて、たくさんの方が本を読むようになれば嬉しいです。

委員長 2年福祉科 中島志穂

初めて図書委員をさせていただき、利用する皆さんに正しい図書館での過ごし方を伝えたり、本をたくさん読んでもらうために並べ方を工夫したりといった活動をしてきました。改善点を見つけて図書館をより利用してもらいやすいよう活動することができました。実は、図書委員になるまで自分から図書館に行ったことがなかったのですが、委員の仕事をしていくうちに本を借りてみようという気持ちになり、図書館という空間が好きになりました。まだ図書館で本を借りたことがない方はぜひ利用してみてください。

副委員長 2年福祉科 中矢琉斗

☆新着図書ピックアップ



『熱源』川越宗一（文藝春秋）

第162回直木賞受賞、2020年本屋大賞ノミネート作品です。樺太（サハリン）生まれのアイヌであるヤヨマネクフとロシア皇帝暗殺の罪で樺太に流刑とされたポーランド人ブロニスワ・ピウスツキの二人が中心に描かれる小説です。「滅びてよい文化などない。支配されるべき民族などいない。」他者のアイデンティティを自分のそれと同じように尊ぶ気持ちを持っていれば、争いは無くせるのかもしれない。



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』ブレディみかこ（新潮社）

日本人の母とイギリス人の父の間に生まれたぼくが、元底辺中学校で初めて向き合う、人種差別、経済格差、その他数々の課題。作者が息子の日常を書き記したノンフィクションです。作品中にある「多様性はややこしい。でも楽しんでいると無知になる。」という言葉が胸に刺さります。自分と違うことを認められない感情は、無知から生まれてくるのでしょうか。



『結局、「すぐやる人」がすべてを手に入れる』藤由達藏（青春出版社）

こちらは購入希望があった本です。「夏休みの宿題は最終日に慌ててやる。体を鍛えたいけど明日からと先延ばしにしてしまう。」新しいことに挑戦してみたい、自分を変えたいと思っている人は多いのでは。ただだらしにしてしまう自分から抜け出して「すぐやる人」に変身できるチャンスです。



『スマホを落としただけなのに 囚われの殺人鬼』志賀晃（宝島社文庫）

こちらにも購入希望があった本です。前作の『スマホを落としただけなのに』は10月までの貸し出しランキングで5位と大人気でした。情報化社会の恐怖を描く、サイバー・サスペンス。スマホやタブレットを活用する皆さんが興味を持てるストーリーです。便利な道具は、くれぐれも使い方にご注意を。

☆今年度の貸出冊数

一昨年度は515冊、昨年度は643冊。そして今年度の貸出冊数は**1219冊**（2月末）でした！どんどん増えています！来年度も、たくさん本と出会い、自分を磨く読書ができるよう、先生方と生徒の皆さんで、一緒に図書館を盛り上げていきましょう！

☆今月の予定

今月は新型コロナウイルスの影響で、臨時休業となるため、図書館も閉館します。また、来年度4月から皆さんが図書館に来てくれるのを待っています。

☆行方不明の本について



『小説心が叫びたがってるんだ』（豊田美加）
『はじめの一步66巻』（森川ジョージ）
『新・ちいさいひと青葉児童相談所物語1～7巻』（夾竹桃ジン他）
以上の本が**行方不明**となっています。知っている人がいたら図書室の先生まで知らせてください。よろしくお願ひします。